

編集後記

年報13号の特集では、「環境科学部における授業改善のとりくみ」を取り上げた。この特集は大きく分けて二つの内容からなる。一つは、「授業公開と懇談会」および「授業コンサルティング」の取り組みについてのものであり、それに関わってきた教員の方々に、そのねらいと実施方法、効果などについて紹介していただいた。もう一つは、環境科学部のいくつかの授業における工夫や改善についての紹介である。すべての授業は、担当教員それぞれが工夫をこらしながら実施しているものと思われるが、今回の特集では、環境科学部の授業の看板ともいえる「環境フィールドワーク」にスポットライトを当てた。その中でも、特に「環境フィールドワークⅠ(FWI)」について、2008年度の担当教員の方々に実施方法を紹介していただいた。環境FWIは、1995年の本学開学とともに始められた。開学準備のある段階において、この授業はフィールド(現地)で問題を発見し、それを総合的に把握する能力を養うた

めのものと位置付けられていた。しかし、ほとんど前例のないものだったため、担当教員は試行錯誤を重ね、工夫をこらしながら実施してきた。さらに、「環境フィールドワーク」に加えて、ユニークな実施方法を試みているいくつかの授業について、4名の教員の方々に紹介していただいた。その中には、「教育とは何か?」という根本的問いから考察しているものも含まれている。

本号で紹介した「環境科学部における授業改善のとりくみ」は、外(上)からの要請によってなされたものではなく、教員が自発的におこなってきたものである。本号の特集の内容が、今後のさらなる授業の工夫・改善の参考になることを望んでいる。

お忙しい中、原稿を執筆していただいた教員のみなさん、そして今回の特集を企画するにあたりいろいろアドバイスをいただいた倉茂好匡先生に謝意を表したい。